

ステキ 活動のご紹介



しづたねがよちよち歩きで病院活動を始めるにはどうすれば…と悩んでいた頃、連絡をくれた北斗くん。「きょうだいの日」にも遠路はるばるあそびに来てくれました！まっすぐな眼差しと熱い気持ちで「Child Wish」を立ち上げ、病院の中に、きょうだいさんが楽しく過ごせる場所をしっかりと定着させた北斗くん。今もその活動は大学の後輩さんたちに引き継がれ、続いています。「Child Wish」さんの活動に、病院でもきょうだい支援ができるんだ、想いは引き継がれていくんだ、と何度となく励まされました。そんなすばらしい活動のことをもっとたくさんの人に紹介したくて、ぜひ書いて！とお願いしました。

Child Wishは、2004年6月に設立された神奈川県立保健福祉大学のボランティアサークルです。2004年11月から、神奈川県立子ども医療センターにて、土日に、入院中のお子さんのきょうだいのお子さんを学生がお預かりをし、一緒に遊ぶという活動を開始、現在9年目になります。団体の名前は、「子どもと子どもを取り巻くすべての人の『Wish(願い)』を感じ、実現していきたい」そんな想いを込めました。

私はChild Wishの初代代表を2年務め、その時にしづたね代表の清田さんにお世話になってからのご縁です。私は中学時代に血液疾患で長期入院をし、私自身に弟がいましたので、半当事者でもあります。現在は病院でソーシャルワーカーとして働いています。

このたび、しづたねさん設立10周年の記念誌という素晴らしい機会に、活動について文字にするという光栄な機会を頂きました。活動から離れてだいぶ立ちますが、立ち上げから活動開始に至るまでの経過、活動を通して考え学んだことなどをお伝えさせていただければと思います。

大学へ入学し、病気の子とも家族に関わる活動をしたと思っていた私でしたが、「Child Wish」の設立当初は活動内容さえ決まっていませんでした。そんなとき、「きょうだいのお子さんは感染症等の問題等で小児科病棟に入れない」ということを耳にしました。

私が入院をしていた1999年頃も、当時小学生だった弟は病棟に入れない状況でした。数年経った2004年当時も変わっていないということを知り、「学生たちで、病棟の外で待たざるを得ないきょうだいのお子さんをお預かりし、遊び相手になれないか？」そんな着想を得ました。想いだけではなく、まずはニーズを把握しなければいけないと思い、難病のお子さんの親子キャンプに参加させていただき、親御さんたちからも「それは必要だ」という言葉をいただき、私たちの想いは確信に変わりました。

その後、大学の先生の仲介を得て、活動場所は神奈川県立子ども医療センターに決定。当時の看護師長さんもきょうだいのお子さんへのサポートの必要性を感じており、病院側もチラシをつくって広報をくださったたり、病棟保育士さんが、子どもとの接し方を学ぶために企画した研修に協力して下さる等、活動を積極的にサポートしてくださいました。

活動初年度は、1階の外來のプレイルームを遊び場にして、折り紙や他のボランティアさんたちが保有されていたおもちゃなどで遊んでいました。おもちゃで遊ぶことが多い子もいれば、走り回ったり、学生とスキンシップを取れるような遊びを好む子もおり、様々でした。活動次年度以降は、新病院開設に伴い、少し手狭ではありましたが、病棟の前にある綺麗なプレイルームに場所を移動し、おもちゃ購入の予算を病院がつけてくださったたり、その他、活動に対して外部から表彰頂いた際のお金で、ブロックのおもちゃや、磁石式の書いて消せるお絵かきなどを、都度買い足したりしました。活動日にくるお子さんは、少ない日はひとりふたり、多い日は10人を超えることもありました。それに対して、学生はグループ制をとり、1グループ6、7人の中から、都度活動日に参加できる学生が参加する、ということたちをとっていました。

『ボク、病院に来てるけど、病気じゃないんだ。』と言ったきょうだいのお子さんの言葉が耳に残っています。親御さんからは「こういった活動があって本当に助かる」と活動を重宝していただきました。

活動は、当時、NHKや全国紙に取り上げられ、活動と同時に、社会に対して発信し、働きかけていくことの大切さを学びました。その学びは、私がソーシャルワーカーとして働く中でも、とても活かしています。

継続こそが、信頼を勝ち得るために大切なことだということも学んだことのひとつです。活動日に参加できるメンバーが少ないということがあるたびにヒヤヒヤしたものでした。

しづたねさんが設立10周年ということをお伺いし、10年間活動を責任をもって継続することを想像すると尊敬の思いでいっぱいです。今後の活動の継続と、多くのお子さんご家族にとって支えとなる場をつくり続けていけることを願っております。このたびは光栄な機会をいただき本当にどうもありがとうございました。

Child Wish 元代表/Social Change Agency 代表 横山北斗

Social Change Agencyは、ソーシャルワーカーの仕事をする多くの人に知ってもらうこと、そして、日本のソーシャルワーク業界を盛り上げること、ひいては、社会の支え手であるソーシャルワーカーの中から、社会を変える人材を輩出することを目的に、現場のソーシャルワーカーたちによって設立された非営利団体です。
<http://social-change-agency.com/>

シブレンジャーとしても、いつもしづたねを支えてくれているなおちゃん。市大病院でもきょうだいさんたちと一緒に、とってもすてきなことをしているのです☆大きな病院の中で、自分のためのノートがあって、話しかけてくれる人がいること、きょうだいさんたちがホッとできる、やさしい取り組み、教えてもらいました。



ノートは可愛いポスターと一緒に置いてあります



表紙も可愛い「きょうだいノート」



「いもうとがにゅいんしました。あしたしゅじゅつです」とだけ書かれたページ。「早くいっしょにあそぼうね。まってるよー!」と家族みんなが笑っている絵。

今年で4冊目になる「きょうだいノート」には、きょうだいの思いがあふれています。

私がきょうだい支援をしたいと思い、大阪市立大学医学部附属病院でそのチャンスをつくっていたことになったのが3年前。

何をしたらいいかなーと考えていたとき、数人のボランティアさんとお話の中で「交換ノートとかいいんじゃない?」という言葉が始まりです。

交換ノートだったら、小学生の時のように、ともだちに秘密を打ち明けたり、好きな絵をかいたりして、自由にできるし、楽しそう。しかも活動は私1人なので、無理なく、長く続けられそうで、とてもステキなアイデアに思えました。

A4の真っ白な自由帳である「きょうだいノート」は、小児科病棟の廊下に設置され、それに添うように、黄色のかわいい子ども用のソファと大きなテーブルも寄贈していただきました。

ボランティアさんに作ってもらったポスターには、「なおちゃん」の笑顔とともにメッセージを記しました。

【話を聞いてほしいけど、だれに言えばいいんだろう】って考えてたりする? それとも、ここで待ってるのひまだなーと思ってるかな? そんなとき、このノートに何かかきこんでみない?? きみの思っていることをかいてもいいし、「聞いて!今日こんなことがあったんだ!」でももちろんOK!! メッセージでもいいし、絵をかいてもいい。きみの好きなようにつかってみよう!】

私は週1回ノートを見に行ってお返事を書いたり、こんなことがあったんだよ、と自分のことを書いたりしています。

ノートを始めてみると、小さい子が描いた絵にほんわかしたり、「なおちゃんは何のゲームするの?」にどう答えようかなと困ったり、妹が退院できないことを残念がる書き込みに「うんうん、つらいよね」と思ったり。

時には、私1人では答えられないような内容が記されていることもあり、その場合はボランティアコーディネーターさんや保育士さん、ノートに理解を示して下さっている小児科病棟の師長さんに相談しています。

また、不適切な書き込みがあった時は、すぐにノートを引き上げてもらうこともありますが、基本的に問題はなく、ちょっとずつノートは書き込みで埋まっています。

きょうだいノートを始めて、私はじかにきょうだいさんの思いにふれてきました。直接何もできない自分に歯がゆさを感じることもあります。

そんなとき、「つらいこととかかいたら、なおちゃんがお返事くれるから、がんばれるよ。ありがとう」とノートに書きこみがありました。ちょっとだけでもきょうだいの力になっているのかな、きょうだいノートを続けてきてよかった!と、うれしくなりました。

決して顔をあわせてお話しすることはないけれど、ここでみんなのことを思ってるからね!というメッセージをこれからも伝えていきたいと思っています。

さあ、今日はどんな書き込みがあるかな〜!?

市大病院ボランティア「なおちゃん」&シブピンク & 大阪大学大学院 人間科学研究科の学生 前田直子

ノートがあればできる、1人でもできる「きょうだいノート」、いろんな病院で広がっていったらすてきです☆